

博士論文要旨及び学位論文審査結果要旨

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程 作業療法学分野 学籍番号：2196003 氏名：井上 香		学位授与年月日	令和4年3月12日
		博士論文受理年月日	令和3年12月7日
		論文審査終了年月日	令和4年2月10日
博士論文名		A difficulty in counting similar juxtaposed items after subarachnoid hemorrhage: a case report	
論 文 要 旨	<p>Abstract</p> <p>Focal brain damage may cause difficulties in counting similar items. It has been hypothesized that this disorder is due to an inability to recall places seen in the immediate past. However, this has not been directly tested. Herein, we report a case to support this hypothesis. He continuously experienced this difficulty for years after developing a subarachnoid hemorrhage. We investigated his problems in daily life and examined differences in counting responses to static or dynamic stimuli. His introspection and the fact that dynamic conditions did not cause this disorder supported the above hypothesis.</p>		

学 位 論 文 審 査 結 果 要 旨	<p>主査：作業療法学分野教授 藤井浩美 副査：看護学分野教授 齋藤美華 副査：作業療法学分野教授 菊池昭夫</p>
	<p>新規性・有効性</p> <p>60歳、右利きの男性が、25年前にくも膜下出血後に右の側頭・頭頂葉などの梗塞を発症し、同じようなものが複数並んでいると数えることが困難となる症状が25年間続いていた。この障害のため日常生活では、マークシートの塗る位置を誤る、買い物のレシートのゼロの数を間違える、同型同色の瓶の数を数えられない、吊るし柿のスケッチで千し柿の数を描き間違えるなどの問題があった。この視覚計数障害は、その原因となる仮説を直接的に検証した報告がない。また、視覚計数障害を有する人の日常生活に与える影響を記述した研究はない。</p> <p>仮説を証明するために、眼球運動計測装置を用いて、声と視線の動きを記録し、反応時間、視点の停留点と停留時間および症例の内省報告から検証した研究である。結果は、静的条件で症例が健常者よりも有意に反応時間が長く停留点が多かった。また、動的条件下で視線を動かす場合、主に滑動性追従性眼球運動を用いて、衝動性眼球運動を必須としないことから、本例の視覚計数障害の背景にある問題が衝動性眼球運動を行った場合の直前に見ていた空間上の位置がわからなくなることを示唆した。</p> <p>この研究は、根拠に基づく作業療法実践(Evidence・based occupational therapy practice)として有用であり、博士論文に値する。</p> <p>信頼性</p> <p>結果を得るための指標は、その信頼性、妥当性が十分に検証されていた。</p> <p>総評</p> <p>井上香さんの博士論文は、作業療法学に重要な意義を提供する内容であるため、いち早く国際的学術誌に掲載されることが望まれる。</p>